



東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

～ 風景を読む ～ イタリア語検定協会理事・イタリア文学研究者 千田 剛

東日本大震災で変わりはてた風景に茫然とたたずむ住民の姿は、69 年前の敗戦時、焼土の中で立ちつくす親たちの像と重なり合う。生命が翻弄され国土がこわされたとき、ひとは残された風景と向き合うしかなかっただろう。そんな風景とのいわば交感現象に目を留めて「風景論(学)」という新しい知的な動きが生まれ、この数十年來、環境問題とも連動して、日欧米でさかんになっている。要はさまざまな学問的視点(地理、土木工学、宗教、神話、文学、美術、社会経済など)から風景というものを分析・定義し言説化する新しい営みで、今では哲学的総合まで行われている。

ところで、私はイタリアの風景に格別の魅力を感じてきた。風景が歴史性、神話性、風土性をたっぷりと含み、どれを切りとつても何か「物語性」を秘めている。それが光の力で構造的な美を生みだしている。風景の選択と解説は何から学んだのだろうか。私の場合、つぎの名前がまず思いつく。Rossellini や Antonioni(映画)、Piero della Francesca や Morandi など(絵画)、Petrarca や Pavese(文学)などが、たくさんのヒントを与えてくれたように思う。

時どき思い出すことがある。1981 年に、ボローニャ市立近代美術館で開催された「イメージと現実」の副題をもつ『風景展』をみたことである。その頃ローマに住んでいた私は、押っ取り刀で駆けつけ、丹念に観てまわった。それは各時代の絵画、各種の写真・地図・図面などの資料と説明パネルで構成された極めて啓発的な展覧会で、地元ボローニャ大学の教師が構想し学生が協力して作りあげた意欲的なものであった。当時、遠近法を生みだしたイタリア人の風景意識につよい関心をもっていた私にとっては、まさに千載一遇、願ってもない好機ととらえたわけである。

カタログは 400 ページに近く、たくさんの論考と図版がつまってズシリと重い。時折手に取り、「風景論」の誕生期の証ともいえる展覧会の余香をたのしんでいる。

検定ニュース

◇2012 年春第 34 回試験志願者数報告

	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	合計
札幌			10/12	7/7	8/9	25/28
仙台			4/6	6/9	8/13	18/28
東京			214/254	230/273	146/177	590/704
横浜			53/58	49/56	36/42	138/156
金沢			3/4	6/7	9/10	18/21
名古屋			25/32	34/43	24/30	83/105
京都			33/41	49/55	40/44	122/140
大阪			71/79	86/93	57/61	214/233
岡山			10/10	9/10	10/11	29/31
広島			1/2	3/4	6/7	10/13
福岡			20/25	20/24	13/22	53/71
宮崎			2/2	3/3	1/1	6/6
那覇			3/3	0/0	2/2	5/5
ローマ			5/7	2/2	2/2	9/11
ミラノ			17/18	5/5	1/1	23/24
一次免除			0	0	0	0
計			471/553	509/591	363/432	1343/1576

*表の数字は受験者数/志願者数

—第 34 回試験の内容に関する Q&A—

(会場アンケートより)

- Q1)** リスニングが難しい。何かいい教材はないか?
A1) 過去の問題集が最適です。過去 3 年分は発売元の丸善出版に注文すると手に入ります。
- Q2)** ビジネスの内容も盛り込んでほしい。
A2) 一般の実用という範囲を想定した検定ですので、ビジネス場面は今のところ想定されていません。委員会には伝えます。
- Q3)** リスニングの問題文も 2 度読んでもらえないか?
A3) 委員会に伝えます。
- Q4)** 長文が長く難しかった、読み応えがあった・・・
A4) 普段から大意をとる読み方をすると対策になりますね。
- Q5)** 各レベルの文法項目と作文の採点基準を発表してほしい。
A5) 検定委員会より次回に回答いたします。

検定に関する変更について

*33 回から 3 級の作文を筆記に含め、リスニングと筆記の 2 分野の評価に変更となりました。

これは、3 級レベルとして受験者の便宜を図るための変更ですが、作文が 2 級以上において重要な要素であることは変わりません。結果表には作文の得点も表記してあります。自分の得点を確認して、今後の学習を継続していただきたいと思っております。

*34 回検定よりマークシート解答用紙が変更になり、読みやすくなりました。

マークの仕方は、今までのように黒く塗りつぶす●、丸枠をつける○のどちらの方法でもよくなりました。丸枠○は、はっきり記入してください。

■第34回検定でのアンケートから

- ① 参考書が少ない。⇒ 検定協会からの過去問題集、三修社のイタリア語検定2級突破、同3級突破、同4・5級突破、白水社の4・5級問題集が市販されています。
- ② マークシート用紙が変わって見やすくなった。(よかったです。)
- ③ 問題集が高い。年3回実施を。会場・地域を増やしてほしい。⇒ 経済的になかなか難しいのですが、努力を続けます。(受験者が増えますように…)
- ④ トイレ退出について ⇒ 他の受験者の迷惑になることがあるので(実際、過去苦情が多く出ました)基本的に認めていませんが、体調が悪い時は手を挙げてお知らせください。
- ⑤ 結果を Web で照会できるようにしてほしい ⇒ それに向けて準備をしています。できるようになれば、会場でご案内します。
- ⑥ 留学情報がほしい ⇒ 検定協会のホームページで間もなくリンクします。
- ⑦ 検定は勉強のステップアップになる。やる気が出る。目標になる。(ありがとうございます。がんばってください!)

■お詫び

大阪会場の一部で、事前に確認したにもかかわらず、昨年と同じ音響機器の整備不備がありました。受験者の方にはご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした。次回より大阪会場は変更いたします。

■受験者の方へのお願い

- * 表札がなかったり、郵便受に名前がなかったりしますと、郵便物が届かずに戻ってくる場合がありますのでご注意ください。
- * マークシートは HB の鉛筆で。2B などの濃すぎるものや、ボールペンだと機械での採点が正確にできないことがあります。また、マークシートの記入は記入例を見て、はみ出したりしないように丁寧にマークしてください。特に0と1、隣り合った数字の間違いにご注意ください。
- * 会場の場所はあらかじめ地図で確認してください。会場の学校への電話問い合わせは、なるべく避けてくださいますようお願いいたします。当日は時間の余裕をみてご来場ください。



■受験体験記

イタリア語の勉強を意気揚々と始めたのが、もはや前世紀の遠い昔、1996年でした。その頃の通貨はイタリアリア、日本円のレートからは大変お徳感もあり、バブル崩壊後の日本から見ればイタリアの生活はまさに”bel paese”。ずっと住んでいたかったのですが、人生がそれを許さずイタリアで長期留学はできませんでしたが、短期、中期研修、行けるときに旅行を楽しみました。検定試験は、始まった頃に4級、3級と順調に合格したものの、ある程度話せるようになってからは2級にチャレンジせず長い間イタリア人の友達と話せることだけを楽しんでいました。

数年してどのくらいできているのだろうか?と疑問に思い、2級を受けて受かったのが2006年。意外に簡単に受かるんじゃない?と勘違いをして1級を目指してからが大変でした。学校にもう一度行ってみると、思っていたよりもわからない。誤解して使っている用法、文法もたくさんあり、どこを修正していいのか、わからない。それでも最高レベルを目指して勉強しているつもりが、1級は受けても受けても不合格。徐々に、合否一喜一憂するのにすら飽き、こだわのをやめよう、と思い始めたところで、昨年ようやく合格できました。随分回り道をした感がありますが、長い間ゆっくりとじっくりとイタリアに寄り添って少しずつ勉強できた、という妙な満足感とともに、まだまだこれから、もっと読めるように、書けるようになるろう、という気持ちも湧いてきました。

(2011年第33回検定で1級合格 木村美菜)

◆第35回(2012年秋季)実用イタリア語検定◆ 実施日:

2012年10月7日(日) 1~5級の全級実施

申込受付期間:

2012年7月17日(金)~8月17日(金)

◆第36回(2013年春季)実用イタリア語検定◆

一次試験実施日:

2013年3月3日(日) 3・4・5級

■NPO 活動について■

- * イタリアの情報についての発信/アグリツーリズム運動やスローフード運動の最新ニュース/留学情報/イタリア語ボランティアガイド情報/世界遺産の現状と保護活動などの情報がほしいという意見が多数ありました。現在、検定協会のホームページを整えております。皆さんで情報交換のできるページも準備中です。ホームページの改訂が少し遅れていますが、4月末にはお応えできる予定です。どうぞご活用ください。
- * 東北でのイベントを6月下旬頃に予定しています。ホームページに発表します。
- * 皆様からの情報もどしどしお寄せいただけますよう、心よりお待ちしております。ホームページの対応が整いますまでは、info@iken.gr.jp をご利用ください。